

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に2006年11月に設立されました。また、日中韓を中心に活動する「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に海外の素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割を担います。

目次

	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	7
➤ 研究・事例紹介	8
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	9
➤ 会議・イベント案内	10
➤ 冊子・ビデオ等の紹介	10
➤ 会員募集中	11

巻頭書記

今年も早いもので師走となりました。河岸・水際の植生も枯れ、春から夏にかけての河川の景観と大きく様変わりしたところも、多く見受けられることと思います。

そんな時期こそ、緑のないありのままの河道形状をご覧いただき、あの水辺の盛土は良い、あそこの砂州は昨年度より水面との比高差が増大したなど、川談義に花を咲かせてはいかがでしょうか。

さて、我々JRRNは、先月中旬に CRRN(中国)、KRRN(韓国)等と共に国際フォーラムを開催しました。また、上部組織である ARRN の来年以降の組織体制など

も協議も行い、新体制への以降に向けて目下邁進中でございます。

本号では、JRRN ミニ講座、国際フォーラム、河川再生技術交流会等、先月に開催した活動内容のご報告が満載です。河川再生技術交流会では、国内外の河川技術者等と埼玉県黒目川で川談義に非常に花を咲かせました。

紙面の都合上詳細をご報告できないものもございます。JRRN ウェブサイトも併せてご覧頂き、参加頂けなかった皆様にも、是非有意義な講演、議論の展開されたイベントの知見を共有できればと考えております。

JRRN 事務局からのお知らせ(1)

第9回 JRRN 河川環境ミニ講座『中国における河川生態系の変化と自然再生の動向(仮題)』開催案内

2011年12月22日(木)に、JRRN主催「第9回JRRN 河川環境ミニ講座」を以下の内容で開催致します。

○講演内容： 「中国における河川生態系の変化と自然再生の動向」(仮題)

(講演：1時間、質疑応答と意見交換：30分)

○講師：李建華氏(東京大学特任教授/中国・同済大学教授/JRRN会員)

○日時：平成23年12月22日(木) 18時～19時30分

○開催場所：(財)リバーフロント整備センター会議室
(東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階)

○参加費： 無料

○定員： 20名(先着順)

○言語： 日本語

本行事では、河川や湖沼の水環境をご専門とし、現在東京大学で特任教授をお務めの李教授をお招きし、中国における河川の自然再生の最新動向についてご講演頂きます。李教授は、かつて(旧)建設省土木研究所に研究員として7年間お勤めになり、その後も日本の研究者と交流を深められ、日本の水環境事情や技術、法制度等にも精通されています。本講演が、経済発展著しい中国における河川生態系の今を学ぶ機会となれば幸いです。国内で川づくりに携わる様々なお立場の方々のご参加をお待ちしております。

※参加申込は以下のパンフレットをご参照下さい
<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/9thJRRNseminar.pdf>

(JRRN 事務局 和田彰)

JRRN 事務局からのお知らせ(2)

ARRN/JRRN 主催「第 8 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」開催報告(11 月 11 日・東京)

2011 年 11 月 11 日(金)、ARRN/JRRN 主催「第 8 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」が、河川整備基金の助成も受け、4 年ぶりに東京にて開催されました。今回のフォーラムでは、『減災と環境保全の視点から都市河川再生を考える』をテーマに、豪州・台湾・韓国・中国・日本の河川実務者・研究者から、河川再生事例や災害等への取組みが紹介され、会場全体での活発な討議が行われました。

本フォーラムのプログラム及び各講演の概要を紹介させていただきます。

■ 第 8 回国際フォーラムのプログラム

第 8 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム

- 日時：平成 23 年 11 月 11 日(金) 13:00~16:15
○会場：東京大学農学部弥生講堂
○主催：アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)、日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
○共催：(公社) 日本河川協会、応用生態工学会、(財) 河川環境管理財団、日本水フォーラム、(財) リバーフロント整備センター、(株) 建設技術研究所、中国河川・流域再生ネットワーク(CRRN)、中国水利水電科学研究院(IWHR)、韓国河川・流域再生ネットワーク(KRRN)、韓国河川協会(KRA)、韓国建設技術研究院(KICT)、ヨーロッパ河川再生センター(ECRR)、イギリス河川再生センター(RRC)

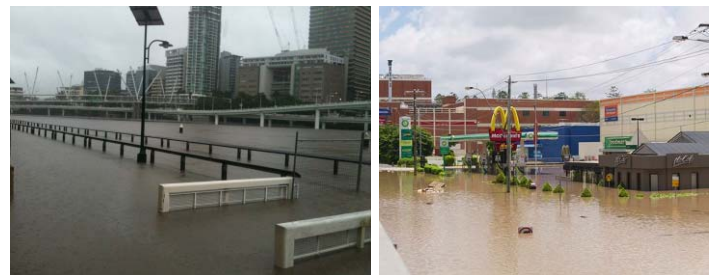
<プログラム>

- 13:00-13:05 開会挨拶 竹村公太郎
(財団法人リバーフロント整備センター理事長)
13:05-13:15 ARR N ガイドライン ver.2 の趣旨及び内容紹介
後藤勝洋 (ARRN/JRRN 事務局)
13:15-16:15
■講演 1 : Alastair Mcharg
(オーストラリア・National Water Commission 水計画部長)
「2011 年ブリスベン川洪水被害への対応及び豪州政府が取り組む河川・湿地管理と再生」
■講演 2 : Shaohua Marko Hsu (台湾・逢甲大学教授)
「台湾における最近の都市河川再生の取組み」
■講演 3 : Sukhwan Jang (韓国・大真大学教授/KRRN 事務局長)
「韓国における水辺環境再生のための技術開発～連続ブロックシステムの実例から」
■講演 4 : Aizhong Ding (北京師範大学教授)
「汾河における河川再生～洪水防御と生態復元に向けた氾濫原の再生」
■講演 5 : 島谷幸宏 (九州大学大学院教授)
「流域治水～樋井川からのイノベーション」
■全体討議 (座長：玉井信行 ARR N 会長)
16:15 閉会挨拶 玉井信行 (ARR N 会長)

■ 講演 1 : 「2011 年ブリスベン川洪水被害への対応及び豪州政府が取り組む河川・湿地管理と再生」 (Alastair Mcharg 水計画部長・オーストラリア)

オーストラリアは、干ばつが多い国である一方で、地域によっては洪水の多い奇妙な国土であることを、近年の気候変動を背景として、2011 年ブリスベン川洪水を事例に紹介されました。そして、水管理への対応として、国家水マーケットや地表水・地下水管理などをオーストラリア政府、地方の各州の共同で推進していくための “National Water Initiative” や、これまでのプログラムを比較評価し、オーストラリア国内で一貫性のある河川・湿地管理の実現を狙った

“Framework for the Assessment of River and Wetland Health” について説明されました。



2011 年ブリスベン川洪水の状況 (オーストラリア)

■ 講演 2 : 「台湾における最近の都市河川再生の取組み」 (Shaohua Marko Hsu 教授・台湾)

近年、台湾では、人工的に改修された河川を再生する取組みが進められているものの、自然のシステムを十分に考慮していないために、元の自然な河川に復元するには至っていないのが実情であることが示されました。Fazih 川の河川再生の例では、コンクリートの護岸を撤去して、土手を復元するなど、景観的には自然な河川に近づきましたが、場所によっては、鳥類の生息場が消失したり、流速が増加して魚類が棲みにくくなるなど、生態学的にはまだ課題があるようです。



Fajih 川の河川再生（台湾）

■ **講演3：「韓国における水辺環境再生のための技術開発～連続ブロックシステムの事例から」**
（Sukhwan Jang 教授・韓国）

韓国では、1990年代から河川再生が推進されるようになってきたことを背景に、水理的な安全性と生態系の保護の両面を満足する護岸の技術開発の事例が紹介されました。その技術の一つである「連続ブロックシステム（グラスコン：草（グラス）＋コンクリート（コン））」は、隙間に土壌と植生を含ませることで、洪水に対する安全性や保水性にも優れ、護岸だけでなく、駐車場や道路などにも活用されていることが示されました。



連続ブロックシステム（グラスコン）の使用例（韓国）

■ **講演4：「汾河における河川再生～洪水防御と生態復元に向けた氾濫原の再生」**（Aizhong Ding 教授・中国）

中国西安市を流れる流路延長 8km の小河川、汾河では、1980年代以降、使用量が増加した化学肥料から水質を保全するため、汚染源の調査グループ、処理技術開発グループ、河川再生エンジニアグループによる河川再生プロジェクトが進められていることが紹介されました。広大な国土を誇る中国の河川再生に当たっては、地域間の格差解消を前提に、流域で捉えることの重要さ、難しさが示されました。

■ **講演5：「流域治水～樋井川からのイノベーション」**
（島谷幸宏教授・日本）

福岡市内を流れる樋井川では、都市化に伴う洪水量増加の問題を背景に、流域市民一人一人が主体となって水を貯めることで、流出抑制 40% を目標とした活動を展開していることが紹介されました。樋井川で実施されている治水は、単に洪水から身を守るための治水だけではなく、利水や環境、コミュニティの形成にもつながる、地域づくりへと発展していくことを視野に入れた市民共働型の流域治水です。



樋井川流域市民会議の様子

全体討論では、「減災と環境保全」、「国土全体と地域の特徴の捉え方」をテーマに会場参加者と講師の方々との間で意見交換が行われ、玉井信行 ARRN 会長から、それぞれの川が持っている個性などの多様性を保持する重要性、そのための技術や情報をアジアや欧米、豪州の各国で共有・交換していく必要性の視点から総括をいただきました。



フォーラム終了後の記念撮影（講師及び運営事務局）

なお、本フォーラムの各講演資料は以下のホームページよりダウンロードできます。

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/eventreport/2985.html>

（JRRN 事務局 後藤勝洋）

JRRN 事務局からのお知らせ(3)

「埼玉県黒目川における河川再生技術交流会」開催報告

はじめに

平成 23 年 11 月 12 日(土)に新河岸川水系黒目川(埼玉県朝霞市 図 1 参照)において、河川再生技術交流会を開催しました。このイベントは、『第 8 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム 減災と環境保全の視点から都市河川再生を考える(11月11日(金)開催)』に参加した国内外(日本、中国、韓国、台湾、豪州)の河川技術者、学識経験者とともに、河川整備の現場を見学しながら環境の形成・保全及び治水の両立を目指した河川整備の技術、市民と行政の協働あるいは役割分担による河川環境維持の秘訣の学習・協議を目的に開催したものです。

黒目川について

黒目川は、埼玉県朝霞市で新河岸川に合流する荒川水系の一級河川です(図 1)。

埼玉県朝霞市を流れる区間の河川改修計画は、河川管理者である埼玉県と地元住民で構成された『黒目川改修計画策定委員会』において検討され、治水安全度を高めつつ、桜並木等を保全した事例かつ施工後約 5 年(平成 19 年 3 月に河川改修完了)経過した現在においても良好な環境が維持されている事例です。

引き続き埼玉県朝霞県土整備事務所、黒目川を親しむ会等複数の市民団体がこの川及び周辺での活動を展開し、環境の維持に貢献しています。



図 1 黒目川位置図

河川再生技術交流会

河川再生技術交流会では埼玉県朝霞県土整備事務所(河川管理者)、黒目川に親しむ会(市民団体)のご協力のもと、河川管理者、市民団体の双方より黒目川における取り組みをご説明いただきました(表 1)。

表 1 交流会プログラム

内 容	説明事項
黒目川の概説	朝霞県土整備事務所 会議室 ・ 河道状況(流量、河床勾配等) ・ 維持管理方策・手法(除草頻度等)
①複断面区間見学	鉄道橋下流 黒目川複断面区間の特徴 ・ 河道状況(流量、河床勾配等) ・ 維持管理方策・手法(除草頻度等) ・ 浜崎黒目橋架橋の経緯
②単断面区間見学	鉄道橋上流 右岸 単断面区間の特徴 ・ 河道状況(流量、河床勾配等) ・ 河床掘削の工夫と効果 ・ 環境の状況(水質、植生等) ・ 利用状況(市民の利用内容等)
③市民団体活動区間	鉄道橋上流 左岸 地域の活性化の取り組み等 ・ 活動概説(活動趣旨・団体設立経緯) ・ 近年の活動状況・内容等 ・ 黒目川に生息する魚種の解説 (魚類調査で採捕した魚種を用いて)
意見交換会	朝霞県土整備事務所 会議室 ・ 市民と河川管理者が河道計画で合意形成に至る経緯概説

赤字: 河川管理者説明事項

緑字: 市民団体説明事項

現地見学会は大きく、3つのテーマに分けたプログラムで開催しました(図 2)。

市民参加による河道計画検討以前の河川形状である『①複断面区間』と以後の形状『②単断面区間』の違いを示しつつ、市民の意見も踏まえた治水安全性と環境の保全を両立させた川づくりの工夫について、河川管理者よりご説明いただきました。

『③市民団体活動区間』では、地域の活性化の取り組みや市民の手による河川環境維持の取り組みについて、黒目川に親しむ会の方々より活動概要をご説明いただきました。



写真1 現地見学の様子
治水(河川改修計画)の工夫

黒目川の改修には、河床を現況の河床形状をなぞって掘削する手法（スライドダウン）が取られました（図 3）。この工夫により、『黒目川改修計画策定委員会』における市民参加以前の改修計画と比べて堤防の嵩上げが最小に抑えられ、桜並木を保全することができました。

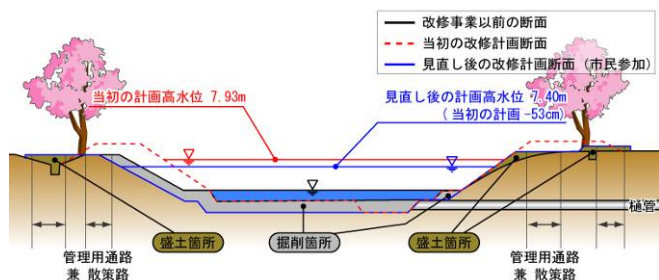


図3 黒目川の改修断面イメージ
環境維持の取り組み

河川環境維持の取り組みの一つとして、黒目川に親しむ会の方々による、河川のゴミ拾いや魚類調査の様子を見学させていただきました。

この活動は、黒目川に親しむ会メンバーによる自主的な活動であり過去 **200** 回以上の実績があること、

市民が生息魚類等の専門的知識を有していること、市内の商店街の店舗に水槽を置き、黒目川の魚を展示し啓発活動を行っていることが、海外参加者にとって大変な驚きであったようです。



写真2 黒目川に親しむ会による活動の様子
(上：魚類調査、下：採捕した魚類の説明)

現地見学後の意見交換会では、参加者より「環境に配慮した事業費用と従来型の事業費の差は？」、「何故、河川計画に官民の合意を図ることができたのか？」等、計画検討に関わる実質的な質問が多く寄せられ、河川管理者、市民団体よりご回答いただきました。

上記の内、官民の合意形成に至った経緯を市民団体の方より以下のようにご説明いただきました。

「当初、市民は改修工事に反対だったが、検討会において自分たちが治水・工期・予算等の制約を河川管理者と共有したことで、環境整備・保全の可能な範囲を理解し、改修計画について官民の合意をするに至った。」

市民の意見が採り入れられ、改修後の川において市民の望む環境が保全されたことが、継続的な市民活動のモチベーションとなり、現在の黒目川の良好な環境が維持されています。

(JRRN 事務局 伊藤将文)

JRRN 事務局からのお知らせ(4)

11/11(金)開催「第 6 回 ARR N 運営会議」開催報告

2011年11月11日(金)午前、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の「第6回ARRN運営会議」が、玉井信行ARRN会長を含む8名の運営会議メンバー、4名のARRN事務局スタッフ、及び「第8回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」講師を含む4名のオブザーバーが参加のもと、東京にて開催されました。

はじめに、これまで1年間のARRN及びARRNを構成する日中韓3組織のネットワークの活動報告が行われ、JRRNからは日本国内での1年間の諸活動の概要が、また韓国河川・流域再生ネットワーク(KRRN)からは10月に公開したKRRN新ウェブサイトについての概要などが報告されました。

続いて、ARRN規約に基づき、以下の事項についての審議を実施しました。

- ①ARRNの組織体制として、2013年以降の次期ARRN事務局や会長選定、また今回の運営会議で満期となる情報委員及び技術委員の任命について。
- ②ARRN規約の改定について。
- ③2012年のARRNのアクションプランとして、次年度国際フォーラム企画や再生事例整備などの情報共有活動、河川再生ガイドライン更新活動、会員増加に向けた広報戦略等の実施方針について。
- ④その他事項について。



本会議を通じ、次期ARRN事務局や新たな参加国増加に向けた組織構造変更に関する基本的な合意が得られ、引き続き日中韓の情報委員会により数か月以内に詰め協議を行い、本運営会議での合意事項に対する結論を得る予定であります。

※議事次第や参加者名簿等はこちら

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/report/2984.html>

(JRRN 事務局 和田彰)

JRRN 事務局からのお知らせ(5)

8/30 開催「第 8 回 JRRN 河川環境ミニ講座『韓国と日本の魚道整備』」講演録発行のご案内

2011年8月31日(水)に開催しました「第8回JRRN河川環境ミニ講座～韓国と日本の魚道整備：全国魚道実態調査と魚道改善事例を中心に」(韓国講師：Jin-Hong Kim氏、日本講師：小川豪司氏)講演録が完成しました。

日本と韓国における魚道整備の最新の状況や、その遡上効果の更なる改善方法に関わる理解を深める上でご活用頂ければ幸いです。

◆発行年月： 2011年10月

◆編集： JRRN 事務局

◆総ページ数： 24 ページ



※講演録はこちら

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/publication/2953.html>

(JRRN 事務局 和田彰)

水辺からのメッセージ No.31

国土文化研究所 特任研究員 岡村幸二（JRRN 会員）

庭先を流れる“環境用水”：
水路と庭先の境界にしなやかな造形と植栽を盛り込んだ水辺のフットパス



撮影：2011年11月（東京都江戸川区北小岩）

◆ドブ川水路の時代を乗り越えて

江戸時代からの小岩用水は、江戸川から直接取水されるようになって以後、水が汚れて蚊が大発生したりしました。その後水質が改善され 1991 年上小岩親水緑道が完成しました。

◆「私の庭は緑道の一部」

家の外側には公共空間である緑道と親水水路が接していますが、路地の特質である「開放性」「曖昧性」「安心感」が感じられます。みんなが庭先で少しでもきれいに見せようとするれば、自然と緑道全体の質が上がるでしょう。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

研究・事例紹介

ARRN 版「アジアに適應した河川環境再生の手引き ver.2」更新活動の進捗報告

「第 8 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」で配布する予定となっていました「アジアに適應した河川環境再生の手引き ver.2」ですが、現在、各 RRN と調整中の状況です。概ね原稿はできあがっています

ので、以下に概要を示します。

今年中に完成、新年を迎えた 1 月には皆様に向けて公開させていただきます。

(JRRN 事務局 後藤勝洋)

第 1 章 はじめに 河川再生の意義、それに対する本手引きの目的や対象、位置づけを整理。 【主な更新点】 ・手引きの更新主旨、履歴を追記 	第 2 章 川の本質を知るために大切な視点 川の状況を把握するための基本となる視点（考え方）を整理。 【主な更新点】 ・日中韓の河川再生の経緯（河川行政の動向）を追加 ・日中韓の写真の差し替え 
第 3 章 河川環境を再生する際の留意点 河川環境再生の進め方の留意点を整理。 【主な更新点】 ・以下の視点から日中韓の具体的な課題を追加 ①水環境（水質・水量） ②水辺の親水性 ③川の自然環境 	第 4 章 良好な河川環境を再生するための方策 河川環境の課題に対する再生事例等を紹介。 【主な更新点】 ・前章で示した日中韓の河川環境の課題に対する具体的な再生事例を追加 
第 5 章 河川環境を再生した取り組み（新規） 日中韓の河川環境再生の優良事例を紹介。 中国：辛江塘河、転河 韓国：溪川、烏山川、良才川 日本：隅田川、和泉川、釧路川 	付録 1. 河川環境再生のための方策体系表（案） 河川環境再生を進める上で必要な技術・施策項目を整理。 （更新なし） 
付録 2. 既存の技術指針一覧 河川環境再生を進める上で参考となる技術指針（日本の技術指針のみ）を整理。 【主な更新点】 ・最新情報に更新 	付録 3. 河川環境再生情報源一覧（新規） 河川環境再生を進める上で参考となる情報源（英語ウェブサイト）を整理。 

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ(2011 年 11 月末までの提供分)

【JRRN 会員からの提供情報】

■『河川生態学術研究会 多摩川研究グループ 第 2 回研究発表会』(12/9 開催)

河川生態学術研究会多摩川研究グループからの行事のご案内です。

○主催：河川生態学術研究会多摩川研究グループ

○日時：2011 年 12 月 9 日(金) 12:45~16:30

○場所：立川市民会館アミューたちかわ 小ホール

◆詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/3018.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■『途上国の防災に向けた簡易水位・雨量監視警報システム』

ボランティアとしてアジア途上国中心に簡易な水位雨量監視警報装置の普及活動を行っている大町利勝さんより、「途上国の防災に向けた簡易水位・雨量監視警報システム(VCEW 型監視警報器)」のご案内を頂きました。



◆詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/product/2977.html>

【海外からの提供情報】

■2012 年 International Riverprize 応募開始

河川に関わる名誉ある賞の一つとして世界的に認められている「国際河川賞(International Riverprize)」の応募開始案内をいただきました。(応募〆切：2012 年 3 月 16 日)



◆詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/news/3008.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■「河川文化を語る会」

JRRN 団体会員である公益社団法人日本河川協会から河川文化を語る会のご案内です。

【第 162 回】

◆テーマ：「生涯学習の場としての植物園」

◆講師：西川綾子氏(水戸市植物公園園長)

◆日時：2011 年 12 月 19 日(月) 18:00~20:00

◆場所：厚生会館(東京都千代田区)

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2928.html>

【第 163 回】

◆テーマ：「日本人の「自然災害死史観」

◆講師：大石久和氏((財)国土技術研究センター理事長)

◆日時：2012 年 1 月 17 日(火) 18:00~20:00

◆場所：厚生会館(東京都千代田区)

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2960.html>

【第 164 回】

◆テーマ：「川から広がるまちづくり」

◆講師：中村英雄氏(NPO 法人新町川を守る会理事長)

◆日時：2012 年 2 月 20 日(火) 18:00~20:00

◆場所：厚生会館(東京都千代田区)

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/3025.html>

【海外からの提供情報】

■RRC(英国河川再生センター)発行『河川再生モニタリング手引き』ご紹介

河川再生のためのモニタリング手法の評価に関わる最新手引き(英語版 330 ページ)が発刊されました。河川再生の目標設定方法、再生前後の河川のモニタリング手法等について、用語解説や事例紹介と合わせ丁寧に紹介されています。



◆詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/news/3010.html>

【海外からの提供情報】

■ヨーロッパの河川再生ウェブサイト(Restoring Europe's Rivers)案内

RRC(英国河川再生センター)より、ヨーロッパにおける河川再生事例の情報共有を目的としたホームページ開設の案内を頂きました。

本ウェブサイトは、EU LIFE++が出資するプロジェクトの一環で開設され、ヨーロッパ河川再生センターの協力の下、ヨーロッパの河川再生に携わる関係者で知見や事例を共有するために開設されたものです。

(言語：英語)

【ウェブサイトの構成】

- ・ホームページ概要紹介
- ・ネットワーク地図
- ・河川再生とは
- ・事例紹介ページ
- ・ニュース及び行事紹介
- ・参考文献等

◆詳細はこちら：<http://www.a-rr.net/jp/exchange/news/3020.html>



会議・イベント案内（2011 年 12 月以降）

（JRRN/ARRN 主催・共催の会議・イベント）

■第 9 回 JRRN 河川環境ミニ講座 『中国における河川生態系の変化と自然再生の動向(仮題)』

- 開催日：2011 年 12 月 22 日（木）18:00-19:30 ○開催場所：（財）リバーフロント整備センター
○講師：李 建華氏（東京大学特任教授/中国・同済大学教授/JRRN 会員）
※詳しくはこちら→ <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/9thJRRNseminar.pdf>

（その他の河川再生・河川環境に関する主なイベント）

■平成 23 年度 河川情報シンポジウム

- 日時：2011 年 12 月 2 日（金）10:00～17:00
○場所：グランドアーク半蔵門 4F「富士の間」
○主催：財団法人 河川情報センター
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/3006.html>

■河川生態学術研究会 多摩川研究グループ 第 2 回研究発表会

- 日時：2011 年 12 月 9 日（金）12:45～16:30
○場所：立川市民会館アミューたちかわ 小ホール
○主催：河川生態学術研究会多摩川研究グループ
<http://www.a-rr.net/jp/event/02/3019.html>

■東北の川ワークショップ流域交流 in 北上川 2

- 日時：2011 年 12 月 10 日（土）～11 日（日）
○場所：石巻グランドホテル
○主催：NPO 法人 水・環境ネット東北
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2906.html>

■第 162 回河川文化を語る会（P8 参照）

- 日時：2011 年 12 月 19 日（月）18:00～20:00

■第 163 回河川文化を語る会（P8 参照）

- 日時：2012 年 1 月 17 日（火）18:00～20:00

■第 7 回川の日ワークショップ関東大会

- 日時：2012 年 1 月 22 日（日）10:00～16:00
○場所：川口フレンジーア
○主催：第 7 回「川の日ワークショップ関東大会」実行委員会
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2904.html>

■平成 23 年度 川に学ぶ全国事例発表会

- 日時：2012 年 1 月 27 日（金）
○場所：東京海洋大学 品川キャンパス
○主催：子供の水辺サポートセンター
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2989.html>

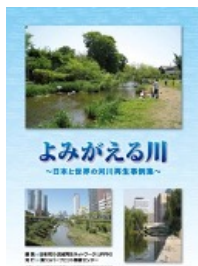
■第 164 回河川文化を語る会（P8 参照）

- 日時：2012 年 2 月 20 日（火）18:00～20:00

冊子・ビデオ等の紹介

■よみがえる川～日本と世界の河川再生事例集～（2011.4 発刊）

- ・編集：日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）
- ・発行：（財）リバーフロント整備センター
- ・価格：無料



※本冊子の入手方法

本事例集をご希望の方は、JRRN 事務局までご連絡ください。なお、JRRN 会員限定サービスとさせて頂き、送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。非会員の方は、JRRN 会員登録後にお申込下さい。

info@a-rr.net / 電話：03-6228-3862

■多自然川づくりポイントブック III 中小河川に関する河道計画の技術基準・解説(2011.10 発刊)

- ・著者：多自然川づくり研究会
- ・編集：（財）リバーフロント整備センター
- ・発行：公益社団法人 日本河川協会（2011/10）
- ・価格：¥2,500（税込）



本書は、多自然川づくりのポイントブックの第 3 弾として、技術基準改定（平成 22 年）における河岸・護岸・水際部に関する具体的な解説とともに、ポイントブック II の内容に見直しを加え再編集されたものです。

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、
所属団体や機関を問わず、河川環境の整備・改善に携
わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

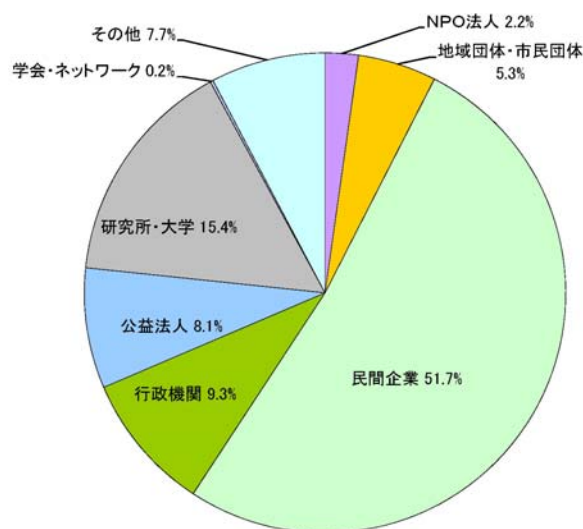
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」を
ご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した
「JRRN ニュースメール」が週に 1 回～2 回メール
配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が
入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加
することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集
の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベ
ント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川
再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援
を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>



2011 年 11 月 30 日時点の個人会員構成

(個人会員数：534 名、団体会員数：41 団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力※1	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載※2	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信※3	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信※3	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加※4	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援※5	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で 団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載※6	◎	△※7	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体 名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信※8	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援※9	◎	×	×

【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局

財団法人リバーフロント整備センター 内

〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 新川中央ビル 7 階

Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

JRRN は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、(財)リバーフロント整備センターと(株)建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

